

2015年9月16日



0歳からの教育

楽で楽しい子育てのために

第九話

「伸びる子に育てる」子育て④

モンテッソーリ教育を受けた人は何故社会で活躍できるのか？

今回から三回にわたりモンテッソーリ教育についてコラムを書きます。

脳科学の進展

脳科学の進展は近年目覚ましいものがあります。特に、脳の中の様子と役割が、fMRI（機能的磁気共鳴法）や PET（陽電子放射断層撮影法）などで分かるようになり、また脳内物質（特に神経伝達物質 ドーパミン、セロトニン等）の研究も進んできました。

それにつれて、前頭葉の働き、特にその前方にある、前頭連合野（前頭前野、前頭前皮質とも呼ばれる）の働きに注目が集まるようになりました。

コラムの第八話で「前頭連合野（前頭前野）の脳に占める割合は、猫で 3.5%、チンパンジーで 17%であるのに対し、ヒトでは 29%を占める」ことを記しましたが、人類の進化は主として、前頭連合野の進化・巨大化であるということです。前頭連合野の働きが、ヒトをヒトたらしめ、他の生物との違いをもたらしているのです。

前頭連合野は、「より良く生きていくための脳」と言えます。前頭葉は脳の前方、前頭連合野はそのさらに前方に位置します。機能は外部の状況、内部から蓄積された情報、IQ と呼ばれるような能力（主として前頭葉以外の働き）から引き出された情報、心の理論（相手の気持ちや立場が分かる）との照合、自分の情動との調整等を全て調整してプログラミングを作る機能です。また、自己コントロール（精神集中）する力も含まれます。状況の変化に対して柔軟に対応する能力も含まれます。受け持つ機能は実に幅広いのです。

これからの子育て・教育が目指す方向

「より良く生きるため」の脳機能が主として前頭連合野にあることが分かったということは、子育て・教育の目指すところは、「前頭連合野」を育成することになります。しかし、どの様に育成すればよいのかと言うことは分かっていません。

「脳トレ」なるものが開発されていますが、その永続的な効果は不明で、それは、子育てでも教育でもありません。ボケ防止にはなるかもしれませんが。

IQを高めるトレーニングも似たようなものです。また、IQ自体で計れる知性は、前頭連合野の僕しもべであり、それ自体が「よりよく生きること」の必要十分条件でもありません。また、IQが高くとも、前頭連合野の働きが悪い場合は、社会的成功は望めません。IQを高める教育も、成人してから有能・有用な人材になったかという証が見当たりません。

「右脳教育」と称して、乳幼児期に特殊なトレーニングを行う場合も、脳は一体化したシステムとして動くのであり、無意味とも言われています。また、乳児期は右脳左脳の分化も進んでいない状態で、右脳を刺激することで効果があるのか不明です。脳科学者は評価していません。

脳が十分準備、発達していない段階で、一方的に認知的能力を高めようとする乳幼児に対するトレーニングは、空回りするでしょう。モンテッソーリはヒトの発達段階とそれに必要とするケアを、科学者として医者として構築しました。

モンテッソーリ法教育は前頭連合野を育成し、機能を高める

脳の機能、特に前頭連合野の機能が明らかになるにつれ、モンテッソーリ教育に従事する人の中に、「モンテッソーリ教育で行っていることは、前頭連合野を育成し機能を高めることではないのか」という思いが生じてきました。私はモンテッソーリの専門家ではなく幼児教室の経営者に過ぎませんが、その様に感じました。

世界で活躍する人材を輩出する

相良敦子先生も『モンテッソーリ教育を受けた子どもたち』（相良敦子著／河出書房）の中で、「（前頭連合野が育っているということと）幼児期にモンテッソーリ教育を受けた人の生き方や考え方に共通する特徴がますますよく見える様になっていきました」と述べられています。保護者の方にも読みやすい本ですから、詳しくは是非お読みになることをお勧めします。その著書の中で、あるテレビ局の方から、モンテッソーリ法の教育を受け世界的に活躍している人達を教えてもらったことが次のように書いてあります。

「アンネ・フランク、ワシントン・ポスト誌の経営者およびジャーナリストだったキャサ

リン・グレハム、アマゾン・ドットコム の創業者ジェフ・ベゾス、グーグルの共同創業者サーゲイ・ブリンとラリー・ページ、ウィキペディアの創設者ジミー・ウェールズ さらにクリントン夫妻も初期のモンテッソーリ教育を受けた人達だと書かれていますし、オバマ大統領もモンテッソーリ教育を受けたと聞きました。」

モンテッソーリ法教育は、天才を作るためのものでも、有名人を作るためのものでもありませんが、最も信頼のおける教育としてこの 100 年、世界各地で実践されています。

モンテッソーリ法教育は人間が本来持っている「美質」を引き出すための教育法なのです。

私が米国の大学院に留学していたときに、周囲から、モンテッソーリ教育法に対する信頼を聞きました。それは、この教育法で育った人達に対する社会の評価でもあります。

ICE 幼児教室の教師の中に、上の子を普通の教育、下の子を ICE のモンテッソーリ教室に通わせた方がいらっしやいます。その先生と話したところ、二人の子どもの性格や生き方が全然違うと言うことです。先生はモンテッソーリ法に感銘を受け、その後勉強し指導資格を取り、某有名私立幼稚園の教諭にまでなられました。今は ICE 教室でモンテッソーリクラスを持たれています。

幼児期にモンテッソーリ法教育を受けた人の質的な共通性

相良敦子先生は幼児期にモンテッソーリ教育を受けた人の質的な共通性について、その著書の中で次のように述べています。(抜粋)

- 他の人は悪戦苦闘しているが、自分はそんなに苦労しないことがある。
- 状況を見て、どうすればよいか自然に考えが湧いてくる。
- 自分で選び、自分で決め、自分の責任で行動する。
- 目標に向かって頑張る。
- 手を使いながら考えることが好き。
- 学ぶときや教えるときに、要素を分析し、分析したものを順序立てる。
- 目標までの道のりを持ち、分かったこと確認して次に進む。

以上の幼児期にモンテッソーリ教育を受けた人の「美質」は前頭連合野の機能でもあります。より良く生きるために授かった能力を、引き出すのがモンテッソーリ法の教育です。

今回は以上で区切りをつけ、以降は第九話に譲ります。

以上

ICE幼児教室のホームページはこちら